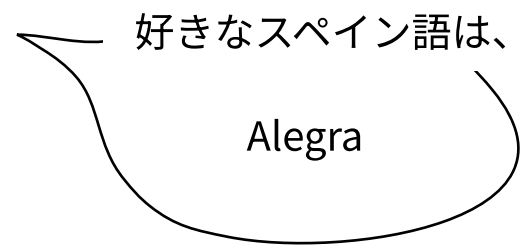


メキシコシティの交通機関についての簡潔な報告

川田寛

教養学部教養学科進学



1. はじめに

私は鉄ヲタである。その証拠に、(というわけでもないが)この報告書も、自宅から遠く離れた、大阪から和歌山へ向かう紀州路快速の車内で書いている。なにも最初から読者を遠ざけるようなことを書かなくてもよいのに、と心配してくださる心優しい方もおられるだろうが、その心配はまったく無用である。というのは、あなたが公共交通機関について、ほんの少しでも興味をお持ちでないとしたら、この報告書を読むのは貴重な時間の浪費である。他のTLP生のものや、私のスペイン語版の報告書(メキシコでの買い物におけるやりとりについて)を読まれることをお勧めする。あるいは、一人で異国情緒あふれる街を闊歩したいと思いい方には有用かもしれない。メキシコの道路(もちろん右側通行)は少なくとも日本人が運転するには危険すぎるし、通りを流れているタクシーも全部が安全とは限らない。だから、メキシコの都心部を自由に動こうと思ったら、地下鉄やバスを使いこなすことがほぼ必須になる。以下は、メキシコシティ(以下、CDMX)における公共交通機関についての簡潔な報告である。なお、通貨単位ペソはM\$の表記を用いている。なお、現時点でM\$1≒¥8である。

また、このレポートを書くにあたり、ショッピングモールを抜け出してメトロバスに乗ったり、夕刻にホテルを抜け出してペセロに乗ったりしてご心配をおかけしたTLP生の皆様にお詫びするとともに、温かく見守ってくださった

Zambrano Gregory教授と武田彩香氏に深く感謝申し上げます。

2. メキシコの公共交通機関

(0) ICカード

東京のSuicaやPASMOのようなもので、CDMXの公共交通機関の大半に乗れる。大きめの地下鉄駅や、たいていのメトロバス駅の券売機で購入することができる。購入時には、カード代金(15M\$)+初乗り運賃(地下鉄:M\$5, メトロバス:M\$6)の合計額が必要である。券売機の画面にはCOMPRA(購入)、RECARGA(チャージ)、CONSULTA(残高確認)の3つのボタンがある。購入でもチャージでも、お釣りが帰ってくることはなく、全額がチャージされる。私の友人はカード購入時にM\$100札を入れて泣いていた。必要な金額を入れ、FINARIZAR(確定する)のボタンを押すと、購入やチャージができる。

(1) 地下鉄(Metro)

東京メトロの名でご存知の通り、日本語でいうところの地下鉄は、英語ではSubwayだが、スペイン語ではMetroである。CDMXでは、1~9, 12号線と、A, B号線の12つの路線が存在する。新旧の車両形式が混在しているが、オレンジ色の車体で統一されている。運賃は均一M\$5であり、ICカードを改札にタッチして支払う。UNAM生情報によると、A号線は治安が悪いらしい。時刻表はないが、たいていは3分以内にやってくる。女性専用車(Sólo Damas)も存在していて、乗降位置に明示されている。

私たちは、皆でテノチティラン遺跡を訪れた帰りにZócalo/Tenochtitlan駅からRevolución駅までメトロ2号線に乗ったが、停車時間が非常に短く、全員が降りる前にドアが閉まりかけていた。また、メトロには最終日の自由行動でもお世話になった。Guia Rojiという地図専門店に行くために3号線を使ったり、アナウアカリ博物館(Museo Anahuacalli)に行くために2号線を使ったりした。接近放送、車内放送は

ないので、駅名標と車内の路線図を見て降りる駅を判断した。

(2) メトロバス(Metro Bus)

日本ではあまりない、原則として専用の道路を走るバスである。1~7号線の7つの路線が存在する。路線ごとにバスの形式が異なり、例えば1号線では3両編成/1階建て、7号線では1両編成/2階建てだが、車体の色は赤で統一されている。運賃は均一M\$6であり、ICカードで支払うが、改札でタッチするか、バス車内でタッチするかは路線によって異なる。時刻表はないが、たいていは5分以内にやってくる。連続してやってくることもよくある。接近放送はないが、車内放送はある。

私たちは2日目の午後に、Perisurという名前のモール(Centro Comercial)を訪れてSIMカードを買ったのだが、そこに直結してメトロバス1号線のPerisur駅がある。私は改札でICカードを購入し、Perisur駅から7つ先のFrancia駅まで乗車し、同じ路線で折り返した。各駅の停車時間が短く、注意していないと乗り遅れや降り遅れが発生するし、実際に私も乗るつもりでいたメトロバスのドアが目の前で閉まった。メトロバスも、最終日の自由行動でお世話になった。サンヒポリト寺院(Templo de San Hipólito)に行くために7号線に乗ったり、CDMX滞在の後半に泊まったHotel Plaza Florencia(ここは本当に快適だった)に戻るために1号線に乗ったりした。7号線の2階席から見えるCDMXの街並みは必見だ。

(3) ペセロ(Pesero)

メキシコ市内を縦横無尽に走っている、緑色や紫色のバスである。車体によって大きさ(ワゴン車くらいのものから日本の都バスくらいのサイズもある)や新しさ(どうして走っているのか不思議なくらいのオンボロ車からピカピカの新車まで)は異なる。路線図や時刻表はおろか、バス停すら存在しないが、どの停留所に停まるのかは系統ごとに決まっており、新しい車両なら電光掲示板、古い車両ならバス前面のボードに系統・経由地・行先が書かれてある(ことが多い)。

iPhoneのMAPアプリで停留所の位置がわかるが、次々とやってくるバスの行き先を瞬時に判断し、正しいバスに乗るのは至難の業である。UNAM生の情報によると、系統によっては危険なバスもあり、一般的には緑色より紫色の路線の方が治安が良いらしい。私たちがCDMX滞在の前半に泊まったHotel Pedregal Palace付近にもいくつかの停留所がある。私は、文房具屋に行った帰りに、Cerrada Redenciónという停留所から、Periférico – Luis Cebreraというホテル最寄りの停留所まで(約1.1km)、126系統のバスに乗車した。クロスシートタイプのバスだった。ところで、このバスには、降車ボタンがない。自分の降りたい停留所に近づいたら、¡Bajo!(降りる!)と叫ぶのだ。バスが停まったら、運転手に運賃を支払って、バスから降りる。運賃は2種類あって、5km以内がM\$7、5km以上がM\$8である。予めポケットに小銭を用意しておけば、降車時にバックから財布を出してバタバタしなくて済むし、自分の乗車距離が分からなかったら、M\$10硬貨を出しておけば適切な額のお釣りがもらえる。

(4)その他 – ここに紹介しきれない数々の交通機関たち

CDMXには、文字数の関係上ここに載せられない交通機関がいくつもある。さらに、近年都市化が進むメキシコでは、全土で鉄道の費用対効果が見直され、新たな路線がいくつも建設・延伸中である。ここに書いてある情報は2024年11月現在のものであるので、実際に現地を訪れる際には最新の情報を入手していただくこと(具体的には、App CEMXという公式アプリをDLするか、スペイン語版Wikipediaを参照すること)をお勧めする。念のため、上記3つを除く、CDMXに関係するすべての鉄道を以下に羅列していく。なお、都市間バスや観光バス等は含まず、軌道を用いるものを含んでいる。

- ・ライトレール(Tren ligero)：ソチミルコやアナウアカリ博物館に行くときに利用する。
- ・トロリーバス(Trolebús)：主に東西を結ぶ路線が存在する、電気式のバス。
- ・ロープウェイ(Cablebús)：郊外の山間部を結ぶ。現在は

2路線あり、1路線が建設中である。

- ・溪谷郊外鉄道(Ferrocarril Suburbano)：中心部のBuenabista駅から北部へ伸びる鉄道。
 - ・CDMX-トルカ都市間鉄道(El Insurgente)：近年部分開業した、メキシコ初の高速鉄道。
- メキシコ州の州都TolucaとCDMXを結ぶ路線であり、Zinacantepec～Santa Fe(CDMX郊外)間が現在開業している。私は帰国してはじめて、この路線が存在していることを知った。

3.おわりに

9月1日の早朝6時半、成田国際空港のアエロメヒコ航空の出発カウンターに並んだ私の心は、期待と不安に満ちていた。生まれて初めて日本を出るという経験の新鮮さは忘れられない感情だった。知らない土地を訪れるのが好きな私にとって、国際研修というのはまだ見ぬ世界を知る絶好の機会だった。2SセメスターからTLPに編入した一番の理由も、この国際研修だった。

あるヒトが、あるトコロに行って得られるものは十人十色だし、その土地に関する印象も千差万別だろう。公共交通機関の紹介という、ある種、実用的な報告書によって私が伝えたかったのが、知らない土地の鉄道やバスに緊張しながら乗り込み、現地人のリアルな生活のあり方を横目に見ながら慣れない手つきで運賃を支払ったりする、自分へのフィールドワーク的プチ試練に対する面白さである。

ここからは忠告になってしまうが、CDMXの公共交通機関に(特にひとりで)乗るときは、チャックを南京錠で閉めたリュックを前に抱え、貴重品ポーチにICカードと小銭を入れておくといいだろう。現地人は普通にスマホをいじっていたりするのだが、明らかに東洋人の顔をした私たちは油断すべきではない。最後に、お世話になった乗り物の写真を下に掲載して、私の報告書を締めたいと思う。



Comprar algo en México

Hiro Kawada

El septiembre pasado, visité a México como parte de la clase del programa TLP. Era la primera vez que iba al extranjero, entonces todas las experiencias fueron frescas y emocionantes. No había comidas incluidas en el hotel en el que permanecimos y los comidas en los restaurantes eran caras, por eso yo usaba el supermercado que había cerca del hotel frecuentemente. Además, cuando visitaba el mercado, compraba algunos productos para recuerdo. Sí, yo compré innumerables veces en México. Comprar es un acto absoluto y fatídico en México. Introduciendo algunos ejemplos, voy a considerar este significado.

El primer ejemplo es sobre el mango. Un día, mi amigo me dijo; “Compré un mango en el supermercado, pero es duro y no es muy rico.” Me gustan los mangos, pero los que se venden en Japón son caros. Así que esperaba comer mangos en México, país tropical. Por ahora, cuando fui al supermercado, había muchos mangos en la cesta. ¡Qué eran baratos! El precio se calculaba por peso, y era aproximadamente M\$10~20(¥80~160) por una pieza. Viendo bien, había mangos verdes, amarillos y naranjas. Como no sabía cuál era mejor para comer, le pregunté al empleado.

—Hola, tengo una pregunta.

—Sí, ¿qué tal?

—¿Cuál es el mejor momento para comer?

—Ah, este estará bien dentro de dos o tres días.

—Muchas gracias.

Incluso hablando torpemente, pude comunicarme.

Después de comprar el mango que el empleado me recomendó y el cuchillo, y de volver a hotel, lo comí. El mango mexicano es dulce y suave. Era muy exótico y rico.

Ahora, el ejemplo siguiente es en el mercado. Al

principio, los productos en el mercado no se muestran (y seguramente no se deciden) los precios. Nosotros debemos preguntar y negociar con el encargado para saber cuántos cuesta. En un caso, tuve éxito al regatear, y en otro caso, fallé. A continuación, el caso de cuando fui a comprar tequila.

—¿Cuánto cuesta?

—Noventa.

—Es un poco caro. Me gustaría que comprarlo más barato.

—No. Noventa.

—¿Puede vendérmelo por setenta, mi amigo?

—No. Noventa.

—Quiero...

—Noventa.

—OK, voy a comprarlo.

En este caso, si quiero tener el producto en realidad, debo pagar el precio que el vendedor dice. Sentí como si perdiera contra el dependiente. El siguiente caso es cuando fui a comprar una bolsa.

—Es bonita. ¿Cuántos cuesta?

—Cincuenta.

—Es muy caro. Me gustaría poder comprarla por cuarenta.

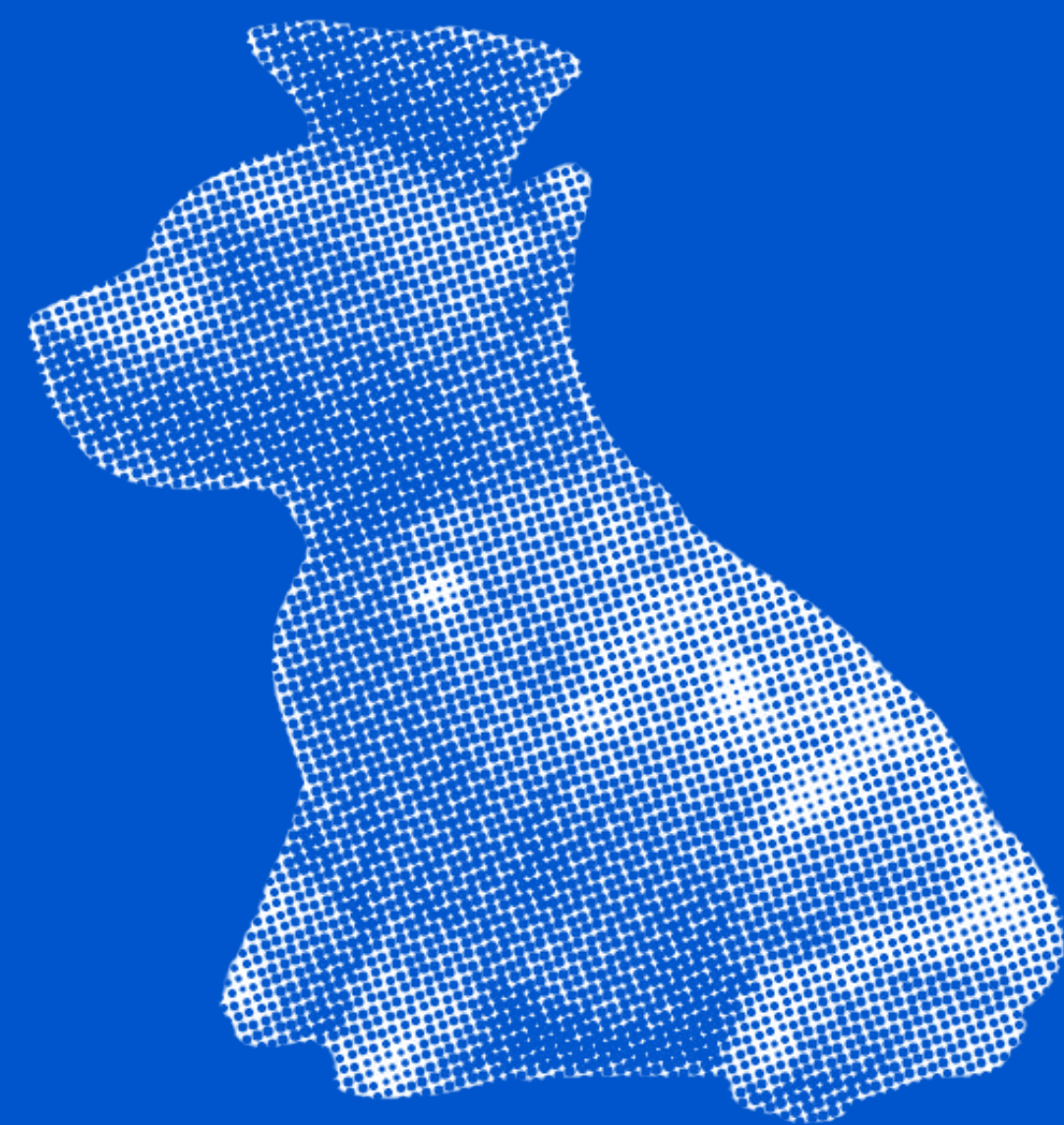
—¿Cuarenta? Vale.

Nunca olvidaré la mirada solitaria en su rostro cuando me dijo "vale". Probablemente él era el hijo del dueño o un dependiente, y era más joven que yo. ¡Terminé regateando hasta llegar sólo a los 10 pesos! Seguí pensando por un rato en el significado de lo que había hecho. Pero esto es cultura. Es natural que los mexicanos locales intenten comprar lo más barato posible.

Hasta ahora, he anotado algunas de mis compras. Cuando viajo, incluso los acontecimientos más pequeños pueden recordarse en la memoria y dejarnos una fuerte impresión. Podrían ser los arrozales bañados por el atardecer que me llamaron la atención después de bajar del autobús, o el olor a diésel del barco que cruzaba hacia una pequeña isla, pero esta vez, se trataba de la

comunicación sobre compras. No he aprendido algo grande, pero cuando me encontré con una cultura que era completamente diferente a la mía, me di cuenta de que pensar y continuar pensando es una forma de comprender mi interior y exterior.

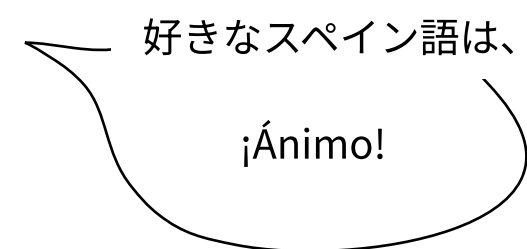




ビバ！デポルティーボ

北島有悟

工学部機械工学科進学



一期一会という言葉がある。「一生に一度の出会い」的な意味の、おそらく日本で最も有名な四字熟語である。海外研修旅行の報告書なので、一期一会とかいっとけばなんかいい感じに文化人みたいな文章が書けるだろうと思い、とりあえず念の為此の機会にウィキペディアで意味を調べてみると、

一期一会（いちごいちえ）とは、茶道に由来する日本のことわざ・四字熟語。茶会に臨む際には、その機会は二度と繰り返されることのない、一生に一度の出会いであるということを得て、亭主・客ともに互いに誠意を尽くす心構えを意味する。茶会に限らず、広く「あなたとこうして出会っているこの時間は、二度と巡っては来ないたった一度きりのものです。だから、この一瞬を大切に思い、今出来る最高のおもてなしをしましょう」という含意で用いられ、さらに「これからは何度でも会うことはあるだろうが、もしかしたら二度とは会えないかもしれないという覚悟で人には接しなさい」という言葉。

なんか思ったよりも深かった。千利休、ごめん。しかしその下に申し訳程度に

一生に一度だけの機会そのものを指す語としても用いられる。

よかった。

導入の皮を被ったコピペでうまいこと文字数を稼げたので、そろそろ本題であるメキシコでの一期一会な出会いの話に移

ろうと思う。

そもそものTLPメキシコ研修、一年生の最初、「スペイン語なのにスペインに行けないのかよ、ならフランス語はコートジボワールに行けよ」と私は思っていたし、周囲にも話していた。なんとも失礼なやつである。しかし、TLPの同期と話するうちに、「どうせ個人でいくこともないしな、いいか」という気持ちになっていった。まだちょっと失礼だが、なんにせよ、南米ブラジルにルーツを持つ私は、多少なりとも縁のようなものを感じながらこの研修に参加した。

「研修」というだけあって、思っていたよりも自由時間が少ない。現地に日曜日に到着し、翌月曜日から金曜日まで、午前中はCEPEという現地の留学生向けの学校で文法やメキシコの古代から近代に至るまでの歴史を学び、午後は集団で博物館や中心地のメルカード（市場）など、決められた場所を自由行動する、といった感じだったので、結構プログラムとしての側面が強かったと思う。

もちろんこれらの活動でも思い出に残るような出会いは沢山あった。まずはCEPEで5日間我々に文法を教えてくれた、ちょうど授業最終日の9月6日に誕生日を迎えたりノ先生をはじめとしたCEPEの先生方。UNAMで交流した現地の学生たち、数字に親を殺されたのかと思うぐらいの迫力で注文番号を読み上げるCEPEの食堂のおじさん（特に170番台の読み上げがアツかった）、メルカードで全然値下げしてくれない店員、博物館で逆ナンしてきて、その後雷雨の中傘も刺さずにドリフターズみたいにずっとけながらも走り去っていった女子高生たち_____

彼らと出会い、彼らを通じてメキシコの人々の活気に触れることができただけでも、かなり貴重な経験ができたと言える。しかし、私の中で、実際に彼らに会う前から、研修のプログラムの中で出会う人たちからだけではメキシコの文化や生活の全ては垣間見ることはできないのではないか、という感覚があった。異国の地でのプログラムに身構えていたのかもしれない。あるいは、用意されたプランに収まりたくな

い、というどこか青春チックな心があったのかもしれない。いずれにせよ、前述の通り一生でもう一度来るかもわからない土地。人見知りとか気にせず、もっと自分たちで誰かとコミュニケーションをとって打ち解ける機会を0から作りたい、というやる気が、初日、ペドレガルというメキシコシティの郊外にあるホテルに到着して1時間ほど仮眠をとるとすぐに沸いてきた。

TLPメキシコ研修の良いところは、出発前に約一年半かけて友達を作れること、といったら過言だが、幸い私は気の合う友達を見つけることができた。初日の昼前からそのうちの一人と一緒にホテルの周りを散策していると、バスケットボールを持った青年が神妙な面持ちで歩いているのを見かけた。一期一会チャンス。すぐさま近くの公園を調べると、気の合う友人2と気の合う友人3も合流して、公園へと向かうと、すぐに先ほどの彼を見つけた。一人でシュート練習をしていたが、そんなことはお構いなし、複数で話しかけに行き2on2をした。メキシコに対してバスケのイメージがなかったので正直舐めていたが、マジで上手い。なんでその距離から入んのよ。メキシコ製ステフィンカリーの名前はエミリオ、なんと我々と同い年だった。シュート精度は遠慮してくれなかったが、とても謙虚でいいやつだった。せっかくなのでエミリオにおすすめのお店を教えてもらってそこで昼食をとった。そのお店もいかにも地元の店、という感じで気に入った。やはりアジアからの観光客は珍しいのか、店長が様々なメキシコ料理について解説してくれた。彼は私を見て『君はスペイン語が少しわかるよね?』と言ってずっと4人の中で私の目を見て説明してきた。店長、僕も日本人なんです。

こんな感じで休息日のような1日目を終え、2日目以降もこういう過ごし方ができたらな、なんて思っていたが、前述の通り結構忙しかったので、なかなか時間を見つけられないままなんだかんだメキシコでの活動に慣れてきた木曜日の夜、

ホテル近くの完全にリピーターになったタコス屋で夕食をとった後、ふと来た道と違う道で帰りたくなり、友人数人と少しだけ遠回りして帰ることにした。チャペルを通り過ぎて坂を下った先に、メキシコの夜には似つかない数の街灯に照らされている広場を見つけた。食後だし少し休むか、と思ったのも束の間、サッカーをしている少年3人組を発見した。キックオフ。我々4人のうちサッカー経験者は2人だけだったので、TLPチーム2人対地元少年チーム3人、まあ中学生くらいだしちょうどいいハンデっしょ、とか思っていたのも束の間、あっという間に2失点。だから上手いって。メッシみたいなドリブルしてくるしこっちは全然ドリブルで抜けないし。さらに2失点目の際に気がついたことだが、酸素が薄い。薄すぎる。一週間ほど激しい運動をしていなかったとはいえ、大して動いてもないのに信じられないほど息が上がって、肺が痛い、吸い込む空気が冷たい。へ口へ口になりながら、試合はまだ終わっていない、と前を見てみると少年たちはなんのこともなく試合の再開を待っている。この時点で試合は決まっていたのだろう、結局その後も東大生の意地（笑）で数点返すも地の利を生かされて失点に歯止めがかからず、終わってみれば惨敗。最後の方は失点を数えるのもやめたのでスコアは覚えていないが、まあこっちは人数が少なかったし、仕方ない。負け惜しみは置いておいて、非常に楽しい体験だったし、彼らと好きなサッカーチームの話ができたのも非常に嬉しかった。ありがとう、ディエゴ、ディエゴ、カルロス。

メキシコ8日目はメキシコシティからユカタンのマニに発つ前日であることもあり時間があつたので、最後にもう一度だけ初日に行った公園へと向かったところ、なにやらフットサルコートの前に人だかりができていた。近所の少年から大人まで、一堂に会してフットサルをしているようだ。こうなったら参加するしかないので、年の近そうな少年3人組に声をかけて、飛び入り参加した。ディエゴたちとの試合の甲斐

あったか、この日は調子がよく、裸足だったが点を決めることもできた。彼ら、ジャイール、チノ、アクセル（太っちょという意味のgorditoと呼ばれていた）と試合の合間に日本の話をしたり（日本に対して車のイメージ、特に東京ドリフトの印象を持っていた）、友達のラクロス棒を持ってもらったりして打ち解け、オレンジジュースまで奢ってもらった。グラシアス、ジャイール。試合後に交換した彼らのインスタグラムのノートを見てみると、「ブラジル人とサッカーしたぜ🇧🇷」と書かれていた。だから俺も日本人だって。

現地の少年たちと運動したのはこの日が最後だったが、2ヶ月ほど経った執筆時でも、これらの思い出、彼らとの出会いは、充実した2週間を過ごしたメキシコ研修の中でも特別な色で光りながら脳裏に焼き付いている。この色がくすんでゆくのが嫌だと感じた私は、前述したジャイールたち以外の2組ともインスタを交換した。飛行機で15時間前後かかる距離に暮らしている彼らの日常を片手でスワイプするだけで見られてしまうインスタグラムの存在は、この研修、特に研修後の日本での生活において彩りを加えてくれるものだ。UNAMの学生たちも含め、2ヶ月経った今でも、朝目覚めて15時間のタイムラグに暮らす彼らの非日常的な日常を見るたびにペドレガルの公園やUNAMの教室、彼らと過ごしたわけではないメキシコでの思い出までもが鮮明に蘇ってくる。

一期一会という言葉がある。おそらく多くの人が由来となる意味を知らないし、ネットの普及によってすぐに自分に合ったコミュニティを見つけられる現代においてはさほど重要ではないのかもしれない。それでも、自分のコミュニティを効率よく探し出せる現代こそ、いつもの帰り道から少し遠回りして、行ったことのない公園に足を運んでみるのもいいかもしれない。そうすれば、本来手に入らないはずの色違いの世界を得ることができるかもしれないのだから。

Un Día Libre

Hugo Kitajima

Ustedes, los que están leyendo, deben saber que pasamos 13 días en México. Casi todos los días hubo algunos cronogramas de actividades muy preparados y divertidos. Íbamos al CEPE por la mañana y visitaba los sitios importantes y maravillosos. Por ejemplo, el primer domingo, visitamos Teotihuacán y vimos las pirámides de sol y luna. Fueron más grandes de los que había imaginado en Japón. La siguiente semana, nos fuimos a Maní, Mérida. Allí, a pesar de los desafíos, nos pasamos un tiempo inestimable. Visitamos y nos sumergimos en cenotes bonitos. Nadamos y jugamos en Progreso. Creo que las experiencias en Maní hicieron nuestra amistad más fuerte.

Puedo decir que el último día en México fue un poco diferente de otros. Solo ese día, nos habían dejado salir libre y separadamente. Muchos de mis compañeros salieron desde la mañana con estudiantes que conocieron en la UNAM. Uno de mis amigos volvió a la UNAM y jugó al lacrosse en el campo universitario. Todos ellos intentaron disfrutar de su último día en México de la mejor manera.

Bueno, debo aceptar que mi manera de divertirme fue diferente de las de mis compañeros. Primero, me sentí un poco cansado de ese viaje. Quise pasar como yo quisiera, despertándome sin plan ni despertador, saliendo del hotel tarde. Segundo, quise pasar el último momento allí con mis compañeros. Afortunadamente hubo dos amigos que no tuvieron ninguna cita ese día. Entonces, decidimos pasar el día así.

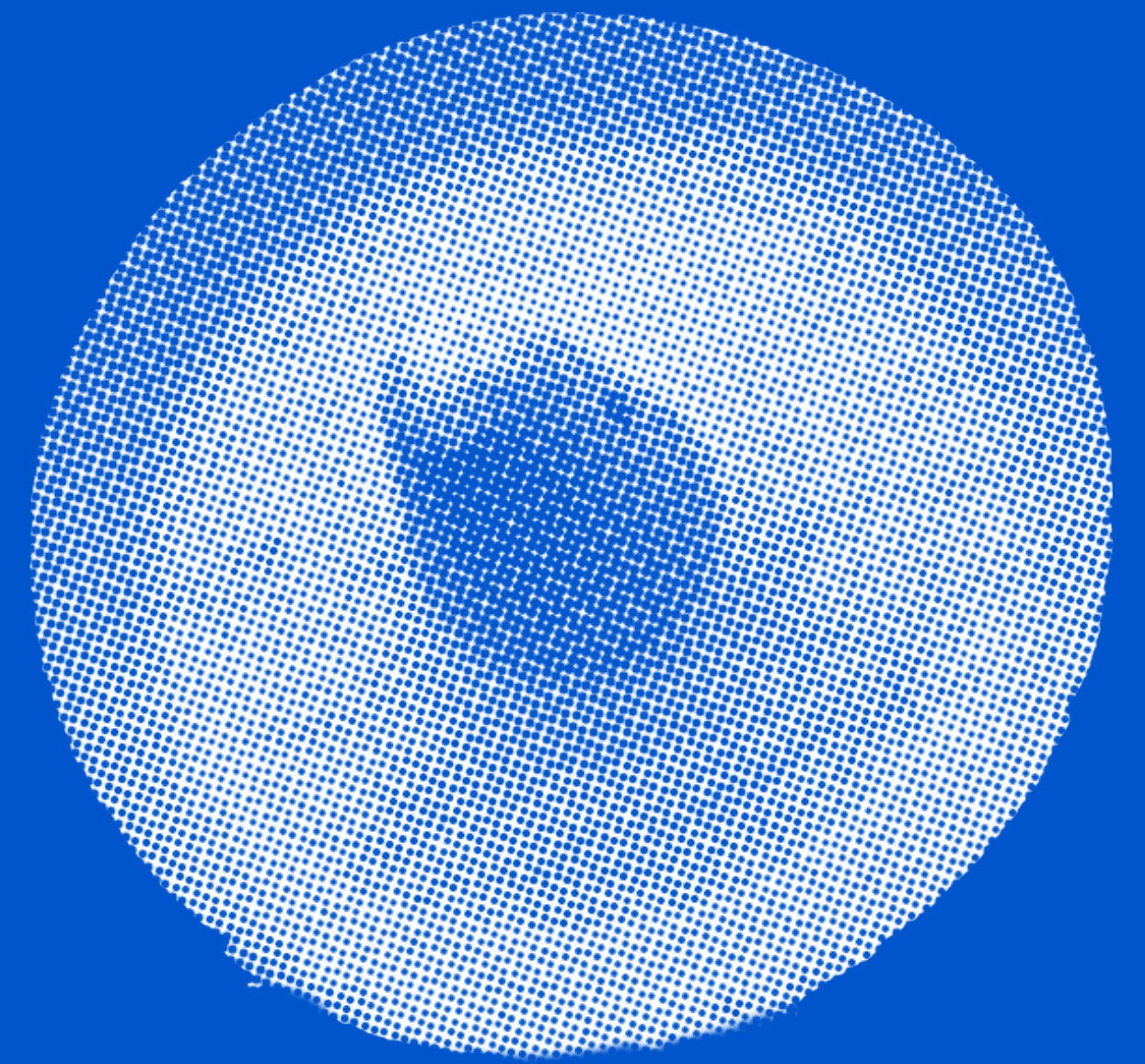
El 13 de septiembre, me desperté a las 8 y desayuné en el hotel. Fui a una lavandería para preparar mi ropa para vestirme en el vuelo a Japón, y mientras esperaba que se secara, mi compañero y yo comenzamos a andar y ver los sitios del centro de CDMX. Andando sin plan, nos dimos cuenta de que la gente se estaba reuniendo. Nos interesó

eso y les preguntamos a un hombre y su mujer qué pasaba. La respuesta fue la más grande sorpresa en el viaje. “López Obrador” No tuvimos tiempo de parar. Corrimos con ellos para ganar un espacio adecuado para ver al presidente. Gracias a nuestro esfuerzo, pudimos verlo y eso hizo mi día memorable.

Por la tarde, como uno de mis compañeros quiso visitar Bellas Artes y ver las obras. Fueron bonitas e impresionantes. Las figuras eran muy fuertes y los colores eran vívidos y brillantes. Además, de nuevo, me encantó ver, oír, y sentir las vidas de los mexicanos, andando por última vez. Fueron diferentes de las de japoneses y me gustan ambos.

No estoy seguro de que podría volver a México, pero lo que estoy seguro es que no voy a olvidarme de este viaje y del tiempo en México en el futuro.

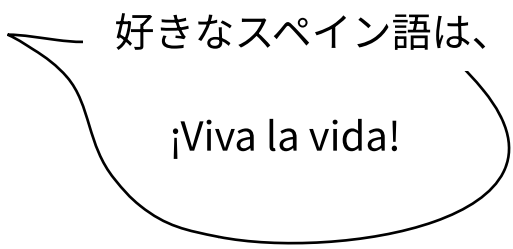




スペイン語が導く 新たな出会い

栞高健人

工学部計数学科進学



出国前にメキシコでの研修で最も気になっていたことは人だった。ラテンアメリカの人は陽気な人が多いというイメージを持っていたため、現地での交流は楽しいのではないかと想像していた。そして、期待通りにさまざまな出会いに恵まれた。

現地で最初に本格的にスペイン語でやりとりした相手はホテル近くのタコス屋の店員だった。そこには初日の昼に行ったのだが、メキシコでの初めての飲食店で、メニューに商品の写真がなかったのでメニューがほとんど読めず困っていた。そこで店員さんに話しかけてみると、店員さんは英語がほとんど話せないそうだが、スペイン語でメニュー全体をざっくりと説明してくれて、紙に書いて注文する形式だということも教えてくれた。その後の対応も丁寧だった。会計時にはたまたまタコス屋に来ていた英語が話せる現地の人が店とのコミュニケーションを仲介してくれたほか、メキシコ料理のひとつsopa de aztecaを紹介してくれた。まだ現地に慣れていなかったのも、英語での紹介はとても助かった。

メキシコでアジア人は目立つのか、現地人から声をかけられた機会が多かった。例えば、メキシコシティで滞在していたホテルの近くのスーパー、ウォルマートでは店員や客から少なくとも3回は声をかけられた。2日目のショッピングモールでは、レストランの前でなぜか声をかけられ一緒に写真をとることになった。最終日のお昼に行ったすき家では、自分のちょうど目の前の席に座っていた人がこちらと目が合うと

笑顔を見せてくれた。その後、サルサのふたが開けられず、その人に開け方を聞いたところ開けてくれた。ほとんど言葉が交わしていないが、顔や目線だけでもコミュニケーションが成立すると実感した。日本だと見ず知らずの外国人とコミュニケーションをしようとする人はほとんどいないだけに、彼らの積極性には驚かされる。

UNAMでは現地で日本語を学ぶ学生とお話できた。彼らと話し始めたときには年齢など簡単なスペイン語さえすぐには出てこなくて絶望しかけたが、慣れてくると少しずつ会話も弾むようになった。向こうの方から積極的に話しかけてくれただけでなく、日本語選択とだけあって日本の文化に興味があるらしく日本の映画やアニメなどについて聞いてくれた。お互いにおすすめの映画を紹介しあうこともできた。猫を7匹飼っている兄弟もいて、本当にいろいろな人がいるなと思った。彼らとはもっと話したかっただけに、彼らといっしょにお出かけするはずだった最終日に風邪症状が出てホテルでの静養を余儀なくされたのが悔やまれる。

7日目には高齢の男女が踊っている広場を訪れた。正直恋愛とは無縁そうな年齢になっているのに、社交ダンス的なことをしているのはかなり不思議に思われたが、メキシコでは60歳を過ぎて新たなパートナー探しをするのが普通のことらしい。私も少しだけ体験させてもらった。パートナーの方の動きや指示を見て見よう見まねで動いていただけだったが、想像していたよりとても楽しかった。バスに乗り込む直前には82歳にもなって踊りを生きがいに行っているというおばあちゃんがこちらにやってきて私たちと写真をとっていた。日本での授業でもラテンアメリカの疑似恋愛文化については聞いていたが、高齢になってもアクティブに恋愛できる文化というのは高齢者の精神的な豊かさにもつながりそうで面白い文化だと思った。

人との交流といえば市場でのやり取りや値下げ交渉も忘れることはできない。日本の特に都市部では商品に値札がついていて店員と事務的なやり取りだけすることが多いが、メキ

シコにある市場では小規模な店が大量に集まっていて、値札がなく交渉によって値段が変化する。最初はこのシステムには慣れなかったが、一度システムを理解するとまとめ買いするなどして何とか値引きしてもらう方法を考えるのが楽しかった。市場の人は総じて話しかけやすく、少しでも商品を気にしていると詳しく説明してもらえた。意外なことに、まとめ買いや高額商品の購入時にはこちらが何も言わなくてもお店のほうから少し割引してくれることがあった。最終日に行った小さな市場のお菓子屋さんでは、値下げ交渉を一切しなかったところ、おまけでちょっとしたお菓子をもらった。

これらの交流全体を通して、まず自分のスペイン語は東大のスペイン語の先生だけでなくスペイン語圏でも通じるという自信が得られた。それだけでなく、メキシコの独特な文化に触れたことでスペイン語が開いてくれる世界の広大さを再認識した。

現代では語学というと英語を重視する風潮が根強い。実際にメキシコでも観光地だと英語が通じたので、旅行客向けに整備された観光スポットを巡るだけなら最悪英語に頼りきってもどうにかなるのだろう。英語が国際語として機能する今、第二外国語を学ぶ意味などないのだろうか。自分はそうは考えない。メキシコの中で英語が使えたのは観光地くらいであり、ほとんどの場所では英語が使えないこともまた事実なのである。実際、ひとたび空港を出れば町中の看板は全てスペイン語。グローバル化が進んでいるとはいっても、日常生活の中心となる言語が英語に切り替わっているわけでは全くないのである。さらに、ホテルの近くの朝の屋台や地元のタコス屋だったり、通りがかりの子供たちだったりといったお客さま用ではない文化に触れることを可能にするのはスペイン語だった。そして、こういったことも旅の醍醐味の一つなのである。よく考えてみれば、日本で英語が使える東京スカイツリーや清水寺などは私たちの日常生活とは離れた、お客様向けに再構成された文化のほんのわずかな一部分に過ぎない。メキシコで英語が使える場所も似たようなものなのだ

ろう。さらに言えば、いまどきそういった観光名所の情報は簡単にネット上で手に入るのであるのに、それだけのためにわざわざ現地に行く意味があるのだろうか。有名な観光名所に行くのも悪くはないが、たくさんのメキシコの人と話すなど、メキシコでしか、スペイン語でないと出会えないそのまの文化に触れることもまた楽しいことであるこの研修で実感した。今後も英語ではなくスペイン語だからこその新しい世界を探していきたいと思う。

Kento Kuwataka

En el viaje a México encontré muchas cosas peculiares de la cultura mexicana. Sobre todo me encantó la cultura mexicana y la comunicación con las personas mexicanas. Toda la gente que conocí en México fue muy interesante.

Primero, sobre la cultura mexicana, pude conocer muchas ruinas prehispánicas. Especialmente las pirámides de Teotihuacán eran muy grandes, y me sorprendió que las pirámides hubieran estado allí por dos mil años. En Maní, vi una iglesia con el lugar para que recen los indígenas. También en Mérida y en CDMX, había iglesias muy grandes y bonitas. Viendo estas iglesias pude entrever el impactó de la conquista del español. Sentí que la historia de México es muy diferente de la de Japón. Además, en la escuela de agricultura en Maní, escuché sobre la manera de la agricultura para cuidar el medio ambiente y el medicamento tradicional. Como yo vivo en una ciudad, ir al campo y conocer la vida tradicional fue muy especial, y entendí que esto es también una parte importante de México.

Las personas en México fueron muy interesantes también. Los vecinos se dirigieron a nosotros en Walmart, en el centro comercial, en la tienda de ropa en Maní, y en otros lugares. Me alegré mucho de que ellos hablaran con nosotros porque, en Japón, casi nadie trata de hablar con extranjeros desconocidos. A veces tomamos unas fotografías con ellos. Fue muy divertido.

En la UNAM hablé con unos estudiantes de japonés allí. Había más de cincuenta estudiantes. No había imaginado que tantos estudiantes de la UNAM estudiaran japonés, y estuve muy feliz de saberlo. Al principio hablar en español fue muy difícil, pero al seguir hablando con ellos me acomodé al español, y luego la conversación fue divertida. Parece que a la mayoría de los estudiantes de japonés les interesa la cultura japonesa, y hablé sobre anime y películas de Japón. Me recomendaron una película

mexicana, y quiero verla cuando tenga tiempo.

El regateo en los mercados fue una experiencia peculiar de México. Aunque no pude regatear muy bien, me divertí mucho pensando cómo regatearía. Solo escuchar la explicación de los artículos fue muy interesante. En el último día del viaje compré unos dulces y no regatee nada. Entonces la vendedora me dio un dulce más. ¡Qué amable! Me acostumbro a comprar con la etiqueta de precio en Japón, y por eso me dio un poco de miedo comprar sin etiqueta de precio, pero esto es la manera mexicana. Me di cuenta de que la costumbre comercial en Japón no es la única manera.

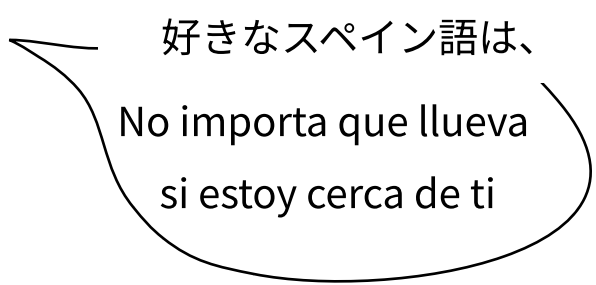
Terminando el viaje especial a México, me fascina español, que me permite conocer el lugar vasto de Hispanoamérica. Aunque en algunos lugares turísticos se habla inglés, no habría disfrutado con la mayor parte de la experiencia si no hubiera estudiado español. Cuando decidí que estudiaría español no tuve algún motivo profundo, pero ahora estoy seguro de que estudiar español en el programa TLP fue una buena elección. Quiero seguir teniendo relación con el mundo del español, el tercer idioma.



海外ってこんなかんじ なのか！？

設樂創平

工学部建築学科進学



メキシコに到着して最初に感じたことはこんな感じだった。いいとか悪いとかそんな感じではなく、ただただ驚きの連続だった。しっかり海外を訪れるのは初めてで、改めて日本の都市との違いを感じさせられた。

自分自身芸術が好きで、建築学科に進んだこともあってメキシコの都市を存分に味わおうと思って心待ちにしていた。メキシコと言われても自分には何も予備知識がなかったのできちんと予習していこう、と思っていたのだが、結局夏休みに甘えてしまい何も知らないまま、ぶっつけ本番で肌で感じるようになった。

メキシコの空港、流石首都の空港だけあって、豪華だった。白くて天井が高い、そんな空港のイメージは世界共通なのかと思わされた。入国ゲートをくぐると、そこにはセブンとスタバが。日本と同じ光景が繰り返されるのか...と思えば、やっぱりそこはなにか雰囲気が違う。石のゴワゴワした感じが押し出された、なんとなくメキシコっぽい雰囲気なのである。詳しい前提知識がなくとも、メキシコに来た、という実感が一気に湧いてきた。思えば、羽田空港にも第3ターミナルにいかにも和風の空間が用意されているが、これは我々日本人からしても和風和風しているなと感じてしまうような、どちらかといえば外国人訪問客用だろう。この空港は、何となくほんもののその土地の感じがしたのである。完全なる自分の直感だが。ちゃんと予習しとけば詳しいこともわかったのかもしれない、そのときはそう少し反省もした。

メキシコでの生活は、国立人類学博物館や歴史地区、テオティワカン遺跡など芸術が目白押しの、楽しい日々であった。

まず、宿泊したホテルの周辺。車の多いこと多いこと。朝の通勤ラッシュ時など、とてつもない量の車が列を成立しており、しかも整列せずに割り込んでいるような車もしばしば。逆に歩行者側としては、道を横断しようと思うと、信号の色を気にする余裕もなく、行けると思う一瞬で渡ってしまわないといけな。未経験のことばかりで驚きだった。どのような都市計画のもとでメキシコシティは形成されてきたのだろう、そんな疑問が湧いてくる瞬間でもあった。これまで、一つ一つの建物にばかり注目してきて、都市計画のような大きな規模のものに興味を持つことはそんなになかったのだが、新たな視点が得られたような気がする。車に乗りながら横を見れば印象的な赤いバスが走っており、これはと思って自分で調べてみることにした。詳しいことは割愛するが、一見乱雑そうに見える交通網も、自家用車主体から公共交通機関主体の都市へと移行させようとする計画に基づくものようである。

都市のお話はこれくらいにして、まず現地の建築について。都市の中心部は流石メキシコ最大の都市というだけあって、かなり先進的であった。高層ビルがたくさん立ち並び、大通りが走っていて、美しい光景だった。特にお気に入りの場所は、独立記念碑のところである。1910年に建てられた歴史ある塔であり、メキシコの独立を記念する重要な建造物のようである。環状交差点に位置しており、そこから四方に街路樹に囲まれた大通りが伸びる様は、凱旋門のようでもあった。最初訪れた際は何も知らず、ただただ壮大な記念碑と美しい街並みに心を奪われていたが、なんと、最終日の自由行動でたまたまここを訪れる機会があった。塔の頂上の像がニケであることなど少しは知識を蓄えていたので、また違った角度から見る事ができた。

このような都心部とは一転、UNAMの中央図書館の外壁の

デザインも素晴らしいものだった。見たことのないほどの巨大さに、緻密に配置されたそれぞれの人物の顔や手といったパーツたち。遠くから見てもこんなにはっきり見えるサイズ、壁の真前で立ってみたらどれくらいの大きさなのだろう。違和感なく見えるそれぞれの模様、それぞれの大きさはどうやって計算して決めたのだろうか。遠くから見ると全体が顔のように見えるが、狙って描いたのだろうか。よく見ると、壁画の中央らへんに窓と窓の間に目があるな。流石世界遺産なだけはある。見ているだけでいろいろな疑問や発見が浮かんでくる。この壁画が持つ歴史や人々の想いといったものが、魂に語りかけてくるようである。

現地の歴史にも地理にも詳しいわけではないので、的外れなことを思っているのかもしれないが、初めて見るときの感想としてはそのようなものでいいのではないかな。そう思えた瞬間だった。確かに、最初計画していたように事前に色々なことを調べていけば、その知識をフルに活用して隠された意味などを見つけて楽しめるのだろうが、それだとなんとなくガイドブック通りのツアー旅行のような気がしてしまう。個人的には、旅はガイド無しの行き当たりばったりでその場で決めるほうが好きだ。鑑賞も一緒。最低限の常識的なものは身につけておくに越したことはないが、それ以上の細かい専門家の説明のようなものは読み込まず、（話が逸れるが、フリーダ・カーロ美術館ではスペイン語だけでなく英語のキャプションもついていた。英語で書いてあるとそちらに目が行ってしまうものである...）その場で素直に自分が感じたことをメモしておく。もちろん、独り善がりな考えのまま終わってしまうのも何なので、帰国してからゆっくり調べて、答え合わせする。もしかしたら、まだ誰も気付いていないことに気づけるかもしれない。自分が触れたことのないような文化の芸術に触れるときは、このような観賞方法が自分にはあっていると気づけた。現地の人と話すだけでなく、このように一人でじっくり考えること、これも立派な「異文化交流」の一つの形だと思う。

ところで、海外でチップを払うという体験をしたことがなかった自分は、最初の支払いの際、本当にそのシステムが理解できなかった。スーパーやコンビニでも払わなくちゃいけないのかと疑問に思っていたくらいである。その結果、一度払うべきところで払いそこねてしまい、また、他のお店では逆にチップを2度余分に払ってしまうということもしてしまった。サンブラーノ先生も紹介していたが、チップの払い方など日本にいるときに事前にちょっと調べればすぐに出てきただろうに、それを怠っていたせいである。普段の生活とは全く異なる場所に入っていくのだから、やはり、知っておくべきことは事前にきちんと調べて予習しておかないとな、と痛感させられた瞬間であった。

最後に、この1年半のスペイン語の学習の集大成としてメキシコ研修に行けたことは、とても有意義な経験であった。語学力の向上はもちろん、実際に直に異国の文化と触れ合う中で、自分の見てきた世界の小ささに気付かされ、自分の中での価値観も少し変わるような感じがした。1年の頃からスペイン語を教えてください今回も引率をしてくださったサンブラーノ先生やサポート教員の宮地先生、現地のUANMの学生の方々など、本当に多くの方々の助けのもとにこの貴重な経験ができました。ここに感謝申し上げます。そして、この1年半をともにしたかけがえのないTLPの仲間たち、本当にありがとう！また、いつかメキシコか今度はスペインに行けたら、そんなふうに期待してます。¡Nos vemos!

Cultura a través de la comida

Sohei Shitara

En este viaje a México, he experimentado mucha cultura. En el ensayo sobre Japón, escribí sobre el arte. Sin embargo, debido a la falta de mis conocimientos de español, voy a escribir principalmente sobre la cultura mexicana desde la perspectiva de los alimentos.

Primero, este es mi primer viaje completo a países extranjeros. No sabía mucho sobre comida allí, pero al menos estaba seguro de que la comida debía ser muy deliciosa. Y esa expectativa era totalmente cierta. Antes del viaje, el profesor Zambrano nos dio una lectura sobre México, donde vimos mucha comida y eso me atrajo mucho. Hablando de México, la comida famosa son los tacos, así que mi primer plato allí fueron, por supuesto, los tacos. El local estaba cerca del hotel y era un poco pequeño. Fui allí con unos 8 amigos, y allí cada uno pidió platos diferentes. El menú tenía muchos platos. Mirando el menú, me di cuenta de que la palabra "tacos" es una forma plural y que el singular es "taco." ¡Incluso mientras comía, estaba aprendiendo español! Era la primera vez que comía y disfruté de los tacos y pensé que, de alguna manera, se parecían al "temakizushi." Lo bueno de los tacos es que podemos compartirlos con otras personas y disfrutar de muchos sabores a la vez. Volviendo al hotel, el profesor nos enseñó que la tienda se llamaba "taquería". Esa noche me di cuenta de que la palabra se compone de dos partes, "tacos" y "ría", que significa "tienda". De nuevo estaba desarrollando mi español.

El supermercado también era fascinante. Había montones de frutas y verduras de colores, algunas de las cuales no había visto nunca. Compré un mango y un cuchillo, lo corté y me lo comí para desayunar. Estaba maduro y blando. Fue un festín. Pero lo que más recuerdo es que en el supermercado algún cliente estaba comiendo pan antes de pagar. Una escena así sería imposible en Japón. Cuando le pregunté a mi amigo, que es de EE.UU.,

me dijo que era una escena normal en el extranjero, que me sorprendió y me chocó un poco. A través de la comida, conocí la cultura extranjera.

Además, comí varios platos, como guacamole, pozole, carne asada, sopa, ceviche... Cada plato tenía su propio carácter y cada encuentro me aportó algunos aprendizajes sobre la cultura española o mexicana. De paso, mi plato favorito fue la torta de queso. ¡Comí cuatro veces!

La comida está muy unida a la vida y creo que representa su cultura y su vida. De hecho, a través de la comida aprendí mucho no sólo sobre el sabor, sino también sobre la lengua española, su cultura y tuve la oportunidad de hablar con la gente del lugar, todo conduce a la comprensión y al intercambio cultural. La próxima vez que vaya al extranjero, me fijaré sobre todo en la comida.

Por último, quiero dar las gracias al profesor Zambrano, a mis amigos del programa TLP y a todos los implicados.



地球の（物理的な）歩き方 ーメキシコ版ー

篠原大我

工学部社会基盤学科進学



今回のメキシコ研修で直接的に語学学校で学んだわけではないものの、目で見えて印象的であったメキシコの交通事情についてお話をしたいと思う。このテーマを選んだ動機としては、個人的にこれからインフラを専攻しようとしているのに加え、日本との違いが大きく表れていると感じたからである。もちろんメキシコ国内の状況も一様に語れるものではないため、今回は首都メキシコシティについてお話ししたい。まず、一言でメキシコシティの道路状況を表現すると、カオスである。なぜカオスなのか。一つ目に主要な道はほとんどが方向別に完全に分離されていることが挙げられる。日本でも高速道路などには中央分離帯があり完全に分けられていることもあるが、ここはそもそも対向車線が存在しないことが多々ある。そのため、仮に自分が今いる場所から道路を挟んで向かい側の店に行きたいときは、大きく迂回して道路をまたいだりくぐったりして向かわねばならない。そもそも横断歩道も少ないため歩いてでさえ向かうのも難しい。これによって、大きな道沿いは空中にも地下にも道が入り乱れている。まれに対向車線が現れたかと思うと普段は左側通行にもかかわらず一部の場所が左右逆転しているということもあった。二つ目に交通マナーの概念の違いである。どうやらメキシコシティ市民の信号への信頼性は低いようである。私が渡ろうとした方向車用信号の青が文字通り3秒程度しかなかったこともあったように、警察行政でさえ信頼されるつもりはないようである。また、車道内では車線を巡る激しい攻防が

繰り広げられている。メキシコシティは交通渋滞が大変深刻であるため交通量も多い。そのため隣の車線に後ろから車が来ていたとしても、すぎるのを待っていればちが明かないというのもあるのであろう。こういった日本とは大きく異なるこのカオスが逆にそれを前提として、歩行者は渡るときに渡ってしまう、とりあえず車線変更を試みる、走っている車もたぶんこっち側の車線に車が入り込むのを予期して走行する、など現実的に運用されているのかもしれない。ちなみに私も今回の滞在期間については一時的に信号への信頼性を下げることとした。

また、道路の舗装状況も決して良くはなかった。今回メキシコシティ内の移動は基本的に貸し切りバスにTLP研修生が集団で乗ることで移動することが多かったが、このバス自体はきれいで快適な環境であった（しかし、メキシコ到着直後に乗り込んだバスにはフロントガラスに貫通痕があり、参加したことをひどく後悔した瞬間もあった。のちにこの痕跡は銃弾などでは決してなく、小石をぶつけられたあとなので安心してよいとの説明を受けた。安心してよいとはどういうことであろうか）。それにも関わらず道が平らになっていないため、バスがひどく揺れた。実際歩いてみるとわかるが、私が訪れたメキシコシティの雨季は夕方に短時間の大雨が降ることが多く、排水溝はあまり整備されていないため、翌日には道路に小さな水たまりがたくさん生じていた。さらに、大きな道には速度を落とさせるためなのか数センチほどの段差のようなものがあった。大きい道にはこれが数十メートル進むごとにあったため車内はかなり揺れてしまった。

以上メキシコシティの道路状況について書いていったが、決して悪く描写したいわけではない。確かに事故は起きやすいのかもしれないが、東京よりも多いと感じるほどの自動車の数をさばくには、皆が譲り合いをすることで快適な環境を実現することよりも、いけるときに行ってしまうという感覚を皆が持っていることのほうがむしろ合理的であり得るからである。また側溝が少ないために水が道路上にたまる問題に

関しても、もしかすると、雨季に頻発的に起こる大雨は短時間ゆえに側溝の処理能力を一時的に超過して使えないのかもしれないし、非常に乾燥する乾季には無用のものでもある。このように考えれば、単純に日本と比べてインフラ整備が劣っていると言い切ってしまうのではなく、メキシコシティ現地の状況を踏まえた上で最低限のニーズは満たしたコストカットの結果である可能性も頭に入れておく必要がある。

むしろ、私は日本にもあればよかったのにと感じる部分もあった。それは交通という意味では少し広く定義しすぎかもしれないが、広場の存在である。例えば、ファレス通りから憲法広場に続く風景である。ファレス通りは日本でも見るような高級店が多く立ち並んでおり、道路はきれいにタイルが貼られており建物も石造りの建物が多く大変美しい通りである。まっすぐなこのファレス通りを進むと突然視界が開ける。そこが憲法広場であり、今回の研修でも最も印象に残る景色の一つである。憲法広場は、連邦の行政機関や大統領府、アメリカ大陸最大のキリスト教建築であるメトロポリタン大聖堂に囲まれた広場であり、アステカ帝国時代からの歴史が蓄積されるソカロと呼ばれる場所にある。そのようなメキシコにとって重要な建物に囲まれているため、独立記念日前後には大統領がメキシコの独立を記念するためにこの憲法広場に現れたり、軍事パレードが執り行われるらしい。私が訪れたのは独立記念日二週間前から直前にかけてであったため、いたるところに国旗が掲げられ、この憲法広場もその準備が行われていた。なぜこの広場を取り上げたかという、この広場というものが様々な人にとっての重要な場所であり得るからである。アステカの遺跡とその上に立つ移入文化である大聖堂、そして独立後の政治の中心というアステカ時代から植民地時代、独立後の過程を一度を観光客は一度に感じることができるため、私以外にも滞在のハイライト的な存在であろう。さらに、メキシコシティ市民にとっても独立を記念するために多くの人が集う象徴的な場所である。こうした様々な文脈が重なる重厚な場所としての広場であり、私はそ

のことに非常に感動した。

今回の報告書では研修を通して感じたメキシコの印象を交通という面に絞って紹介した。私がここから学んだことは、メキシコの街が単に危ないとか美しいとかそういうことではなく、なぜメキシコが今のメキシコであるのかということを考えさせられるような街になっており、大変興味深い場所だということである。この研修自体は2週間と短く、もう一度戻ってきたいと思える場所であった。そして、そう思わせてくれるメキシコで出会った素晴らしい友人と研修にともに参加した先生やアシスタント、友人に感謝をしたい。



¿Qué hace la identidad mexicana?

Taiga Shinohara

Cada persona mexicana tiene una identidad nacional diferente. Es una cosa que una mexicana me dijo en una conferencia durante el viaje a México en septiembre. Al principio pensé que era demasiado ambiguo porque es natural que las personas tengan características diferentes. Pero me di cuenta de la palabra luego.

México tiene una historia larga desde el tiempo antiguo como Teotihuacán. En la Ciudad de México hay muchas cosas sobre la civilización antigua. Muchas paredes en las calles en la ciudad tienen murales de leyendas de Teotihuacán y de la cultura Azteca. El centro de la bandera nacional de México es el águila, el símbolo de los Aztecas. Así que creí que los mexicanos valoran la cultura antigua.

La segunda mitad del viaje fue en Yucatán, el lugar donde floreció la civilización Maya. Tuve la oportunidad de platicar con una familia sobre la vida diaria. Supe que las personas ahí crecen en el medio ambiente Maya, es decir hablan la lengua maya normalmente. Ellos estudian español en la escuela. Me sorprendió porque en Japón todos pueden hablar estandarizado japonés antes de ir a la escuela. Les pregunté qué tipo de identidad tenían. La respuesta fue Maya. Es cierto que las personas en Yucatán tienen una identidad nacional porque había banderas nacionales en la ciudad de Yucatán, también era una semana antes del día de la independencia.

Pero ellos respondieron Maya antes de México. En CDMX la civilización antigua es uno de los símbolos de la nación, pero en Yucatán la civilización antigua per se es la identidad de la comunidad. Ciertamente la historia de la antigüedad será importante para ambos, pero cómo la sitúan en el contexto es diferente. Es un ejemplo de una situación complicada.

Hay otra cosa que la hace difícil. México había sido colonizado por España hasta 1810. Un amigo mexicano me

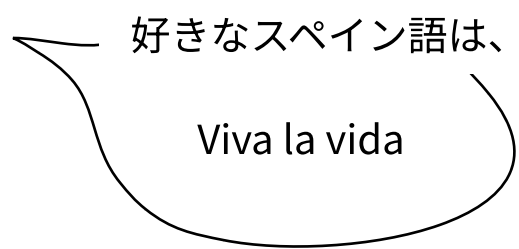
dijo que fue muy difícil la pregunta si le gusta España o no porque en la historia España había hecho asesinatos y robos, pero algunos de mis ancestros eran españoles. De hecho ahora en México hablan español, van a iglesias, todos saben que vienen de España.

Supongo que simplifiqué demasiado las cosas. Identidad es un concepto de un grupo, pero al mismo tiempo, cómo identifican la cosa puede ser diferente. En México, donde la historia es diversa y complicada, conseguí la oportunidad de considerar qué hizo el orgullo de los mexicanos, y también consideré qué me hizo a mí sentirme orgulloso también.

地球の裏側で感じたこと

清水崇源

教養学部教養学科進学



到着直後は正直「あーやっぱメキシコ怖い、スペイン語もようわからんし日本帰りたい」と思っていた。これはお出迎えしてくれた税関の人の顔が怖すぎたのが悪いのだが、実際は想像より治安も良いし人々も温かくて、次第に「思ったたより悪くないやん」と思うようになった。後から考えれば失礼極まりない話で申し訳ない。

特に我々が滞在した辺りは、こちらから変なことをせずに十分気をつけていれば身が危険にさらされることはなかった。不穏な報道は未だちょくちょくあるものの、前に比べればずいぶん改善したんだろうなあとは感じた。

治安面もそうだが、それよりメキシコで出会った人々の明るさが印象深かった。メキシコ人は陽キャどころの騒ぎではない。到着初日、公園でいきなり現地の少年にバスケットボールに誘われた。考えてみてほしいが、日本の公園で初対面かつ日本語を大して話せないような集団を見かけたとして、彼らを自ら自分たちの遊びの輪に入れる人がどれだけいるだろうか。「こういう場所なんだな、自分は本当にメキシコに来たんだな」と改めて実感した。初日だったこともあり何か盗られはしまいかと警戒していたが全然そんなこともなく、スニーカーがお陀仏とはなったものの素敵な一期一会の思い出を作れた。他にも、ホテルの近くの屋台で列に並ぶお客さんとおしゃべりしたり、シウダデーラ広場でおじさまおばさま方とダンスしたり、マニのお店の子供たちと遊んだり、日本なら絶対に交流が生まれない場面での会話が多く、スペイン語の良い練習にもなった。

はじめはメキシコにこうした雑な印象のみを抱いていた自分だが、CEPEでの学習や様々な施設・遺跡の訪問を通して、より複雑で多様なメキシコを見出すようになっていった。とりわけメキシコの空間的多様性・時間的重層性は、滞在を通していやでも意識させられた性質であった。

無数の車が飛び交い夜も往来が絶えないメキシコシティ。走れど走れど木々が広がり、人や灯りの気配が一切ないマニ。気候も真逆なこれら2つの場所が同一の統治機構に属し、同じ制度設計や価値観の下で統治されているとは、宇宙人に言っても「¡falso!」と言われて信じてもらえないだろう。改めて近代国家という存在の歴史的特殊性を認識させられた。またマニでもキリスト教の影響は強く見られ、植民地統治時代のスペインの徹底ぶりにも同様に驚かされた。「よくもまあこんなところまでご丁寧に、、」といった所感。こうした空間的広がりやメキシコを語る上で重要な一片を成しているのは間違いないだろう。

同時に、メキシコシティの街を少し歩くだけで、メキシコが孕む時間的重層性もすぐ感じられる。独立記念日に合わせて赤・白・緑の三色に装飾された広場のすぐ近くには植民地統治の中心であったチャプルテペック城が保存されており、さらにその周辺の出店ではテオティワカンやマヤなど古代文明をモチーフにしたキーホルダーが売られている、といった具合である。こうして現在の都市風景から時の流れをモザイク状に観察できることには、メキシコという国の豊かで多様な歴史は言うまでもなく、そうした複数性をも単一の文脈・ストーリーの中で共存させようとする国家権力の努力が色濃く反映されていると言える。実際に国立人類学博物館の存在はこの仮説を裏付ける。はじめは、学術的価値を持つ過去の遺物の数々を一つの博物館ですべて展示してくれるなんて、メキシコ政府は文化・歴史を重んじていて素晴らしいなあなどと気楽に感心していたが、ほどなくしてこの博物館こそがメキシコ政府の統治に正統性を与える一手段であると気づかされた。多様な地理的・文化的・歴史的背景を持つメ

キシコ全土の人々に「メキシコ」という統治単位への忠誠心を抱かせるためには、彼らをもれなく包含した特定のメキシコ史物語を彼らの中に植え付け、その物語の系譜を継ぐ今の政府には正統性があるのだということを彼らに共感してもらう必要がある。博物館建設は、その物語の定着に重要かつ象徴的な役割を果たしたに違いない。時間の都合上博物館をゆっくり見学することはできなかったが、展示の仕方や順番にも間違いなく政府の工夫が隠れているはずである。

これは日本に帰ってきてから知ったことだが、実はスペイン語の「historia」という単語には歴史（history）という意味の他に、物語（story）という意味もあるようだ。つまり、歴史とは物語、言ってみれば創作なのである。一見学術・教養に価値を置いた営みが強い政治性を伴い得ることを肌で実感したこの経験は、今後私が学問と向き合う上でも意識し続けるものとなるだろう。

本研修のまた一つ意義深かった点は、日本に対する自らの無知を痛感させられた点だ。

メキシコ滞在は驚きの連続だったが、現地で出会ったUNAMの友人の説明から得られた学びがたいへん多かった。例えば電車の中で、私が路線図にたくさん描かれたカラフルなイラストを眺めていたところ、「メキシコでは字が読めない人が多いことを考慮して、鉄道の駅はイラストで表現される」ということを教えてくれ、ともすると見逃してしまいそうな些細な違いにも社会的背景の違いが反映されていることを実感した。さらにチャプルテペック宮殿を訪問した際も、彼はメキシコの歴史について平易な言葉で簡潔に解説を加えてくれた。

一方で、彼に日本のことについて訊かれ、答える側になった自分を振り返るとどうだろう。例えば、「日本では人と話すとき、どんなことをしたら失礼になるか?」「今の日本政治についてどう思う?最近の日本経済は?」というような質問。自分の言動一つで日本という国への印象が決まりかねな

い場面だが、自分の知識と表現力が決定的に不足しているせいでなかなか納得のいく返答をすることができず、もどかしい思いをした。日頃から日本に安住することなく世界に視野を広げ、ひいては早いうちから日本と真剣に向き合うことの必要性を認識させられた。

考えてみれば、上述した空間的多様性・時間的重層性も、実は日本にも当てはまる事象である。東京と北海道と沖縄は地理的にも文化的にも全く異なるバックグラウンドを持っているし、日本でも歴史教育について政府が一定の権限を持っている。日本で暮らしている間はこうしたトピックに大して注意を払うこともなかったが、メキシコでの気づきを逆輸入する形でそれらをようやく意識することになるのは、実に皮肉な話である。

以上、滞在当時に抱いた感想・考えたあれこれができる限り素朴に再現することを試みた。研修の記憶が薄れかかっている今が、肌感を記録として残しておくラストチャンスだったからである。ここに記した研修の一次的な学びをどのように咀嚼して将来に生かすかは、未来の自分に対する課題としておく。

私が本研修で充実した二週間を過ごせたのは、ひとえに研修の実現を支えてくださった方々のご尽力のおかげに他なりません。引率のグレゴリー先生と武田さん、スペイン語部会の先生方、現地でお世話になったすべての方々に心よりお礼申し上げます。それともちろんTLPの同級生。モニターの壊れた飛行機の中で14時間だべったり、部屋のコウモリと格闘したり、小屋で冷水シャワーを一緒に浴びたり、サルサダンスを披露したりするような友達は今後の人生でもなかなか現れないと思います。ありがとう。Hasta la vista.

Las cosas pensaba en el otro lado del mundo

Takamoto Shimizu

Durante mi estancia en México, lo que me interesó allí fue la diversidad de los paisajes en diferentes ciudades. Hay lugares en la CDMX donde pasan infinidad de coches todo el tiempo. Sin embargo, está Maní donde podemos ver nada más que árboles básicamente y casi no encontramos a las personas, aparte de mis amigos y las personas en la escuela de agricultura. Si le digo a un extraterrestre que ambas ciudades están gobernadas por el mismo gobierno, imagino que me dirían “¡Falso!” (si hablan español). Pero es verdadero. Creí cómo los estados modernos son distintos históricamente. Otra cosa que me pareció sorprendente fue la penetración del cristianismo, incluso en las ciudades pequeñas como Maní. No puedo creer que los españoles exploraron todas las regiones inmensas y desconocidas, hace varios cientos de años. Estas extensiones espaciales son muy importantes para entender México.

Al mismo tiempo, se destacó que hubo varias capas de tiempo en México. Das un paseo un poco en CDMX y vas a verlo. Por ejemplo, cerca de una plaza decorada con los colores rojo, blanco, y verde, para celebrar el día de independencia (15 de septiembre), el Castillo de Chapultepec se conserva para los turistas, aunque es un símbolo de la época colonial antes de la independencia de México. Y además, los llaveros que celebran la cultura en Maya y Teotihuacán eran vendidos en las tiendas cerca de ahí. El hecho que un paisaje representa cómo multicapa en la historia de México significa dos cosas en mi opinión: que México tiene una historia rica y diversa, y que en México se ha tratado de incluir esta pluralidad histórica dentro de un contexto y una narrativa determinados por el Estado.

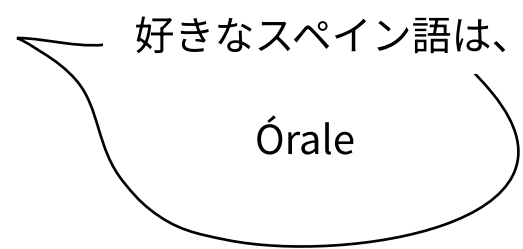
El primer punto es bastante evidente y no habría necesidad de explicaciones adicionales. Uno de los ejemplos que prueba mi segundo punto es el Museo Nacional de Antropología en CDMX, que de hecho visitamos también. Al llegar al museo, yo solamente admiré al gobierno mexicano, que invertía mucho en historia y cultura para que los ciudadanos y los turistas aprendan más. Sin embargo, después de un tiempo, me di cuenta de que este museo tiene una función de dar legitimidad al gobierno. Para que el gobierno obtenga la confianza de las personas con orígenes diferentes, es necesario crear una “narrativa nacional” que incluya a todas las personas de todas las épocas. Entonces, el gobierno es finalmente legítimo, está autorizado a añadir nuevas páginas. Y el museo funciona como un catalizador que difunde la historia. De hecho, “歴史/history” y “物語/story” en japonés/inglés son ambos expresados como “historia” en español. Me di cuenta de primera mano que una actividad aparentemente centrada en la academia y la cultura puede tener un objetivo político. Esta experiencia probablemente seguirá teniendo una influencia para mí cuando me enfrente a la actividad académica en el futuro.



食と人々の温かさ

関亮輔

工学部化学システム工学科進学



TLPでは言語習得を目標に日々努力していたが、2年の夏休みの間に実施される海外研修もまた一つのモチベーションの源だった。言語習得において会話することは必要不可欠だが、海外では不慣れな言語での対話に強制されるので言語習得における近道といっても過言ではないと思う。メキシコでの海外研修を通して多くの人々と文化に触れて刺激を得るという目的もあり、一年半の学習の成果を発揮するのが楽しみだった。

しかし、周囲の多くの人は心配を吐露していた。麻薬組織や政権発足後の殺害事件、ニュースでは数多のメキシコの治安の悪さが顕になっているため、非常にネガティブな印象を受ける人は多いだろう。正直なところ、自分自身も少し不安が残ったまま日本を離陸した。

メキシコに着陸したのは現地時間で午前の10時ごろ。ホテルまでツアーバスで移動したが、路上ではtope（スピードバンプがバス）が至る所に存在していた。それらに上下に揺さぶられながらメキシコの道路では「何でもあり」なんだなという印象を抱いた。急な車線変更、失礼な割り込み、渋滞でのクラクション、やりたい放題だそう。その結果、道路に走っている車の多くも目立つ傷や凸凹が多く、正直それらの隣接した道を歩くのすら怖かった。しかし、その恐怖がなくなるぐらい温かかったのはLa Brasa Ayuukというタコス屋さんの人々でした。いかにも常連のお客さんしか行かなさそうな店の雰囲気を出していたが、いざ入ってみるとものすごく丁寧に注文の仕方やソースの説明をしてくれて拙いスペイン語でもしっかり聴いてくれてうまく対応してくれた。メ

ニューに書いているものすらわからない状態で、初めて食べた現地のはorden de tacos de pollo(3つの鶏肉タコス)でした。鶏肉だったら安心だろうという安易の考えで頼んだものが実はめちゃくちゃ美味しくてタコスと共に5つのサルサ（マンゴハバネロ、ヴェルデ、モーレ、ランチェーラ、メヒカーナ）を用意されたので飽きることなく様々な味が楽しめた。ただ、5分の4が日本人の舌基準（個人差あり）で辛いソースだったので辛いのが苦手な人は覚悟したほうがいいかもしれません。食べ終わった後はいよいよ会計の時間だ。これもまた見知らぬ国でやると緊張するものだ。明らかにレジとわかるようなものは存在しなかったため、とりあえずキッチンの人たちの方へ向かったが、何をすればいいのかわからなかった。そこで助けてくれたのがデリバリーで頼んでいたおじさんでした。会計を手伝ってくれたのに加えてこの店のおすすめのスープであるsopa aztecaを紹介してくれました。初対面でお互いの名前も知らないのにここまで手助けしてくれるのに感動して絶対次に来た時にsopa aztecaを食べようと思った。本当に美味しかった。あまりにも店の人たちの気が良かったので最終的にはメキシコシティ（CDMX）滞在中は合計で4回もその店を訪ねた。毎回快く挨拶した後案内され、帰る時には名前を聞かれたりして軽くチャットでもしているような気分だった。お店の人とのインターアクションのおかげでスペイン語が少なからず上達した。最終日には一緒に写真を撮って、SNSも交換した。なんていい人たちだったのだろうか。

次に会ったのは毎日早朝から屋台やっているお姉さんたちである。メキシコでは早朝から屋台を開いてチュロスやタコス売っている店は少なくない。仕事に行く前にそらで朝ごはんを購入して、店主と楽しそうに会話するという光景を頻繁に見た。私たちが目をつけた屋台では主にtamalesというメキシコ版のちまきのようなもので、もろこしをすりつぶして、ラードと合わせてこねた生地をとうもろこしの

苞葉で包んで蒸したものが売られていました。当然初めて買いに行った時はそれが何か不明だったためおどおどしながら尋ねてみると快くtamalesについて説明してくれた。不安に溢れた寒い朝であったが、再びメキシコの人々の温かさを感じ取れた。サルサにはヴェルデ、モーレ、ドゥルセが存在していて私たちはヴェルデ（青唐辛子を使った少々辛いサルサ）を食べた。パンと一緒に食べてみた味に関しては割とプレーンでtamalesのサルサによってとても印象が変わる。その他のサルサを試すことができなかったのが心残りだが、メキシコの伝統的な食品の一つを味わえてよかった。

CDMXから離れてマニへ移動した後、全く違う環境でTLPの誰もが驚愕しただろう。心地よいホテルとは程遠い場所で三泊を過ごす。これも貴重な経験であったが、甘い環境で育て上げられた日本人には非常に厳しい場所だった。だが、そこでダニという最も印象に残った少年に出会った。マニ農民学校に到着した後にバスでコンビニに行ってスナックと飲み物を調達しに行った。そこで彼に出会ったのだ。彼以外にも7〜9歳ぐらいの4、5人の子供たちが集団で私たちの方にやってきて興味津々に様々なことを尋ねてきた。Black Pink、BTSなどを知っているかどうか。ユカタン半島の小さな都市で、こんなにも小さい子供が他文化のアイドルに興味を持っていることに感心した。しばらく話した後、ダニは突然トリケラトプスのおもちゃを私にくれた。会って間もない外国人にこんなにも優しくできる子供はこの世の中にいるのだろうか。僕はお返しとして偶然持っていたディズニーランドのスーベニアメダルを彼に差し上げたが、彼はそれがディズニーランドのものだと知った途端、満面の笑みで¡Disneylandia!と言って喜んでくれた。この出会いを機に子供のような好奇心旺盛な姿勢と何にでも有り難みを感じるという感謝の気落ちを忘れぬようにと思った。また、ここで持論を述べるが、外国語を学ぶ上で子どもと会話することはいい練習になると思う。単語を説明する能力は劣るが会話が基本的にわかりやすい単語から形成されているため聞き取りも

対話も大変いい練習になる。

最後にUNAMで出会った学生との交流について書きたいと思う。交流したUNAMの学生の全員は大多数がアニメや漫画などの日本の文化をきっかけに勉強し始めていた。自分自身も趣味でアニメや漫画を見ていたので話題がつきなかった。中でも特に仲良くなったのはMelissaであった。彼女は日本語に加えてドイツ語も昔習っていたため、4ヶ国語を話せた。僕も昔ドイツに7年間住んでいて現地校に通っていたためある程度話せた。最終日にUNAMの学生と観光していた時もずっと四言語を混合しながら会話していたため、自分がわからない単語があればすぐに他の言語に訳してくれて話しながら勉強しているようであった。こういった友達は本当に貴重で互いに高め合える存在として最高なのでこれからもSNSのDMで仲良くしていきたい。

最後に今までTLPでお世話になったDebora先生、石橋先生、川崎先生、そしてGregory先生に感謝を申し上げるとともに、この道を共に歩んできた仲間の皆に改めて感謝したい。



Unas comidas mexicanas en La Brasa Ayuuk

Ryosuke Seki

Cuando llegué al aeropuerto de México, estaba preocupado porque me encontraba en un país completamente desconocido, pero la gente de la taquería La Brasa Ayuuk estaba tan alegre que mi miedo desapareció. El restaurante tenía el ambiente de un lugar al que sólo van clientes habituales, pero una vez dentro, fueron muy amables y me explicaron cómo pedir y qué salsas utilizar, e incluso mi pobre español fue escuchado con entusiasmo y tratado a fondo. Ni siquiera sabía lo que ponía en la carta y mi primer plato fue orden de tacos de pollo. Lo que pedí con la simple idea de que si era pollo estaría bien, en realidad estaba muy delicioso, y me sirvieron cinco salsas diferentes (mango habanero, verde, mole, ranchera y mexicana) con los tacos para que pudiera disfrutar de una variedad de sabores sin aburrirme. Le puse mucha salsa porque pensé que cuanta más salsa le pusiera mejor sabría, pero fue una estupidez. Al principio, sabía bien el sabor dulce del mango, pero después se fue volviendo cada vez más picante, y al final era intolerable. La salsa mexicana estaba especialmente buena, con cebolla, tomate y guindillas verdes. Si no te gusta la comida picante, mejor prepárate. Tras la comida, llegó el momento de pagar la cuenta. Hay otra cosa que me pone nervioso en un país extraño. Era obvio que no había caja registradora, así que me acerqué a alguien de la cocina, pero no sabía qué hacer. El hombre que me ayudó allí fue el que encargó la entrega. No sólo me ayudó con la cuenta, sino que también me presentó la sopa azteca. Después visité este restaurante muchas veces porque era muy bueno y la gente era muy amable.

Pedí sopa azteca según el hombre que me ayudó con la cuenta. La sopa azteca estaba llena de queso y me llenó más de lo que había imaginado, el agua de Jamaica era ácida pero también tenía un agradable dulzor, así que era

como un zumo de uva y era muy fácil de beber. Mi plato favorito fueron los tacos al pastor hawaiano. El salado del jamón y el dulce de la piña se intensificaban mutuamente, creando una maravillosa armonía en la boca. Era tan bueno que me gustaría hacerlo algún día. Antes de mudarme a Maní, me gustaba tanto el agua de Jamaica que compré un montón en polvo en Walmart. Todavía me quedan algunos. Era la primera vez que comía auténtica comida mexicana y había bastante para mi paladar. Espero que todos en Japón lo prueben. Todavía me alegro cuando recuerdo a la gente del restaurante y fue un muy buen recuerdo de mi formación en México. Me encantaría volver a verlos cuando regrese a México alguna vez.

Por último, me gustaría dar las gracias a todos los profesores que me han ayudado en TLP hasta ahora, y por acompañarnos a México. También me gustaría dar las gracias a mis compañeros que han compartido conmigo el estudio del español.

メキシコで感じた文化の融合

田中成美

医学部医学科進学

好きなスペイン語は、

Hasta luego

私がスペイン語TLPに参加した理由は2つある。1つ目は、入学前から抱いていた「新しい言語を本格的に勉強してみたい」という気持ちだ。私は帰国子女で、自然と英語を話せる環境で育ってきたため、日本での英語の授業では「外国語を習得する」という感覚がなかった。授業を受けるたびに物足りなさを感じており、英語を母国語としない人々と同じような「ゼロから言語を学ぶ」経験をしたいと考えていた。2つ目には、ヒスパニックの人口が多いテキサス州で4年間過ごしたことがあると思う。スペイン語は常に身の回りにある言語で、身近に感じていたため、自然とスペイン語を第二外国語として選んだ。

1年半、Gregory先生の創意工夫に富んだ楽しい授業と、理系TLPの仲間たちのおかげで、スペイン語の勉強を続けることができた。結果として、文法や単語の知識といったいわゆる座学だけでなく、スペイン語の映画を観たり、ラテン音楽を楽しんだりすることで、ラテン文化への理解も深めることができた。

今回の研修では、スペイン語のスピーキング力を高めたいという気持ちと、幼少期にヒスパニックの友人たちを通じて触れたメキシコの文化や歴史についても学びたいという思いがあった。

初めて首都のメキシコシティに降り立ったとき、すべてがスペイン語で書かれていることに驚いた。当たり前のことだが、それまで外国は英語圏しか行ったことがなかった私にとっては新鮮だった。空港からホテルに向かうバスの中では、旅行代理店の方からオリエンテーションを受けつつ、車窓から見える色とりどりの壁画に感動していた。

メキシコは、白人と先住民の混血である「メスティーソ」が多いという特徴がある。私は、ラテンアメリカ諸国がスペインの植民地支配に対してあまり良い印象を持っていないという認識を持っていた。しかし、現地に行ってみると、メキシコの文化にはスペインの影響が色濃く残っているということだ。スペイン語が公用語であり、多くの人が熱心なキリスト教徒で、建物もヨーロッパ風だ。先住民の文化とスペインの植民者たちの文化が融合していて、2つは切っても切り離せない関係にあるのだと感じた。

2つの文化の融合は、様々な所で目にすることができた。以下に、印象的だった3つの例を挙げる。

1つ目は、建築だ。私たちは2度、ベジャス・アルテス宮殿というオペラハウスに行った。白い大理石で作られた天使やペガサスの像が並ぶ中に、マヤ文明の水の神チャックの小さな彫刻があった。また、スペイン人によって破壊されたアステカ文明の首都、テノチティランの上に建てられたスペイン風の教会も見学した。アステカ文明の遺跡の上に立つ教会でグアダルーペ聖母像に向かって祈るのは、不思議な気持ちでした。

2つ目は、宗教のシンクレティズム（融合）だ。アステカ文明の女神が現れた場所と同じ場所に、メキシコで非常に人気のある聖母グアダルーペが出現したとされている。もともとキリスト教は征服者たちの宗教として嫌われていたが、コンキスタドールたちがキリスト教の物語を先住民の信仰と融合させたことで、次第に受け入れられていったのだ。実際、私たちは街中の至るところに聖母が描かれた布を目にした。また、映画「ココ」でも取り上げられた「死者の日」も、元々アステカ文明の死者の魂が死後の国から戻ってくる時期と、キリスト教の祭日とかぶせられて作られている。

3つ目は、食べ物だ。メソアメリカ原産のトウモロコシやチレ（唐辛子）と、西洋からもたらされたタマネギや肉が組み合わさった料理は、まさに文化の融合の産物である。

今回の研修を通じて、私が持っていた「メキシコ人はスペ

インに対してあまり良い印象を持っていない」という考えが、「必ずしも敵意だけがある訳ではないのではないか」に変わった。メキシコの人々が、スペインのもたらした文化や宗教を、自らの先住民の文化と融合させ、新しいアイデンティティとして誇りを持っていることに感銘を受けた。また独立、革命、そして学生運動といった激動の時代を経ているが、その中で文化的な衝突と妥協が繰り返されてきたことも印象的だった。日本のように、単一民族が多い国では感じられない複雑な文化の融合を、実感できた。

以上がメキシコの首都、メキシコシティだった。一方で、より色濃く先住民の文化が残るマニでは雰囲気違った。マニを含むユカタン半島周辺をマヤ地域と呼ぶが、現在でもマヤ所語の話者は300万人いると言われている。田舎の町だったが、夜は子供たちが中心地の公園で遊んでいて、意外と子供は多かった。西洋医療ではなく、伝統医療を使っている人たちが多く、特に年配の人は病院よりも伝統的な医者にかかることが多いそうだ。

さて、ここからは具体的に研修で心に残ったことを綴りたいと思う。

まず、マニでの経験は忘れられない。地元の子供たちに「ありがとう」をマヤ語でどう言うか尋ねたところ、母親の所に案内してもらい、教えてもらった。どうやら子供たちはマヤ語を習っており、普段使いをしている訳ではなさそうだった。仲良くなり、最後には子供たちと私たちで写真を撮った。今回の研修で一番地元民と接していると感じた瞬間だった。

最終日はメキシコシティの観光地を、UNAMの学生であるマリアに案内してもらった。マリアの案内のもと、観光用の2階建てバスに乗り込み、数駅移動したところで、反対方向に向かっていたことが判明。ハプニングはあったが、彼女のおかげで多くの場所を回ることができた。マリアは首都の歴史や、危ない地域と安全な地域の違いなどを丁寧に説明して

くれた。さらに、ベジャス・アルテス宮殿の壁画について、日本語で専門家のように詳しく解説してくれ、私たちをもてなさそうという気遣いが嬉しかった。多くの著名な壁画家が作品を残しているが、シケイロスの「Tormento de Cuauhtémoc」が特に強く印象に残った。アステカ王国の元王子であるクアウテモックが拷問される場面が描かれており、彼の苦痛に満ちた表情と、冷たく見つめる拷問官、そして泣き叫ぶ家族が描かれていた。大胆な表現に強い感動を覚えた。

今回の研修を通じて、スペイン語がある程度通じたことに喜びを感じた。と同時に、まだ一人で生活するには不十分だということも実感した。今後のスペイン語学習のモチベーションにも繋がった上、異国の地で異なる言語を使ってコミュニケーションを取ることを知る機会にもなった。

改めて、今回の研修を可能にしてくださった宮地先生、Gregory先生、武田さん、それからTLP生の皆さん、ありがとうございました。皆さんのおかげで今後の人生の糧になるような貴重な経験をさせていただくことができました。感謝しております。

Una experiencia muy fuerte

Narumi Tanaka

Tengo dos razones para tomar las clases de TLP español. La primera es que siempre he querido aprender un nuevo idioma. Como soy un “returnee”, no he podido experimentar cómo es aprender una lengua extranjera desde cero. Le segunda es que viví en Texas durante 4 años, dónde hay muchos hispanos. Los hispanohablantes estaban cerca de mí, y por eso sentí el español como algo familiar.

Durante un año y medio, gracias a las clases divertidas del profesor Gregory, y a mis compañeros de clase, he podido continuar con mis estudios de español. A través de esta experiencia, comprendí mejor la cultura latinoamericana.

En esta formación en lengua española, quería mejorar mi expresión oral. También, deseaba saber acerca de la cultura e historia mexicana, que viví a través de amigos hispanos en mi infancia.

Al llegar a Ciudad de México, me sorprendí de que todo estaba escrito en español. Nunca había estado en un país de hispanohablantes antes.

Una de las cosas que más me impresionó fue la cultura mezcla de los indígenas y de los españoles. Por ejemplo, la arquitectura es una fusión de ambas culturas. En el Palacio de Bellas Artes, vimos esculturas de ángeles y pegasos, pero había una escultura pequeña de Chaac, el dios del agua, que era importante para los aztecas. Además, visitamos una iglesia que se construyó encima de la capital de los Aztecas, que se llama Tenochtitlan. Fue una extraña experiencia, rezar en una iglesia sobre las ruinas de la civilización azteca.

También me interesó el sincretismo religioso. Se dice que la Virgen de Guadalupe apareció en el mismo lugar que la diosa azteca. En un principio, el cristianismo era odiado por ser la religión de los conquistadores, pero los españoles fusionaron la religión indígenas con las

leyendas cristianas, que fue un éxito.

Este viaje me permitió practicar mi español. Me alegró que los mexicanos pudieran entenderme. Me ha motivado a seguir estudiando español en el futuro.

El último día, una estudiante de la UNAM, María, nos guio por Ciudad de México. Tomamos un autobús especial, que tenía dos pisos. En particular, me gusta ver los murales del Palacio de Bellas Artes. Son muy impresionantes y vivos. El mural que más me gusta fue “Tormento de Cuauhtémoc” de David Alfaro Siqueiros. María nos lo explicó con detalles. Ella es muy inteligente y amable, y disfrutamos nuestro último día en México. ¡Qué chido que pudimos comunicarnos en tres lenguas, inglés, español y japonés!

Fue una experiencia muy fuerte y divertida. Nunca olvidaré este viaje. Muchas gracias a todos los que hicieron este viaje posible, en especial a los profesores y a mis compañeros de TLP.

